学校をつくろう!通信

がっこう・N.P.O.
珊瑚舎スコーレ

第139号

学校の役割　　その １１８

北海道に珊瑚舎スコーレを開設する準備をしています。北海道に珊瑚はないので珊瑚舎スコーレという名前はちょっと馴染まないかもしれませんので、校名は決まっていませんが、なぜ遠く離れた北海道に珊瑚舎スコーレをつくるのか。その訳を皆さんにご理解して頂きたいと思います。

4月に認可される学校法人の名称は「雙星舎(そうせいしゃ)」と言います。ややこしいのですが、学校の名称は珊瑚舎スコーレで、その学校(高等部)を運営する法人の名前が雙星舎です。(初等部・中等部はNPO 法人珊瑚舎スコーレの運営です)雙星舎は二つの思いから名付けましたが、1 つは個人的なことなので省略します。もう一つは日本の南と北、沖縄と北海道の二つの珊瑚舎スコーレを表しています。沖縄と北海道に学校を作ることは僕が自分に与えた30年来の課題の一つです。

近代国家以前、つまり明治政府発足以前のヤマトゥと沖縄・北海道の関係はここでは省略させて頂きますが、沖縄も北海道も先住民の方々が独自の歴史と文化を築き上げてきた土地です。その地を侵略・併合し抑圧・差別してきた歴史が日本にはあります。僕はこの日本と言う地に生まれ名前をもらい、様々な制度の中で暮らしてきました。もちろん制度やそこで暮らす方々、また様々な所で出会った方々の恩恵があって今があります。

しかし、南と北の地で同じように生まれ、名をもらい様々な制度の中で暮らす時、差別と抑圧の中で生きなければならない少数民族の方々が存在するという事実があります。僕は地球上の奇跡のような自然環境を持つ日本列島のすばらしさを感じています。そこに生まれたことに喜びを感じます。しかし、そこに作られた国家制度が少数民族の方々に対し何とも取り返しのつかないようなことをやってきたことかと思います。その下で受ける恩恵は恥ずべきところがあると思うことがあります。

僕の社会生活の中心は教員としての時間です。たまたま、小さな学校を作れる幸運に恵まれました。僕が生まれてきた日本という国家制度の枠の中で南と北の少数民族の歴史と文化を尊重する学びを体験できる学校を作りたいと考えました。ヤマトゥの近しい人達は親身になって反対してくれました。東京近郊で作ればいいと言われました。それもありがたいことだと感じていますが、少数民族の方たちが作った歴史や文化の中に学校があること、そこで身近に彼らの歴史や文化に直接触れ、交流を作る事、そこでの学びを学んだ者たち自身が発信すること、大切だと思います。日本列島をその自然環境の素晴らしさに見合う社会環境を学校制度という枠の中で具現化したいのです。何度も言っていることですが、制度はそこに暮らす一人一人を排除するためにあるのではありません。できる限りの知恵と工夫で一人一人に寄り添うことが制度の役割です。沖縄と北海道に珊瑚舎スコーレを作ろうとする理由です。

事務局で仕事をしていると初老の男性が訪ねてきました。にこにこしながら僕を見て「星野先生！」ビックリしました。札幌で映画「ちむぐりさ」を観た縁で珊瑚舎に寄ってくれたそうです。毎年4,5回、20 年近く沖縄に来て一人で遺骨収集をしているそうです。今までに3,000体近くの遺骨を収集したそうです。私がたまたま事業に成功し、人並みの生活ができるのは平和だからです。その平和は75年前、沖縄が戦争の捨て石になったからです。その上での平和です。お亡くなりになった沖縄の方々にせめてもの供養と感謝の気持ちを届けたいと思い、やらせて頂いています。沖縄と北海道を結ぶ糸が一筋増えました。札幌でお昼に回転ずしをご馳走になりました。同行者は必ず、すぐそこにもいるのです。(ほ)

がじゅまる しんかぬちゃー

（生徒・学生のコーナーです）

今年度はコロナ禍で、５月の合同遠足も中止、馬天ハーリーも中止、諸々の行事が出来ない状況でした。ようやく落ち着き始めたかと思った頃、高等部の「琉球・沖縄史」講座のフィールドワーク『グスク巡り』を初等部から夜間中学校まで合同で行けるだろうかと考えたのですが、感染拡大防止のため急きょ取りやめとなりました。楽しみにしていた生徒達ががっかり。今年は仕方がないですね。

そんな中、雨と寒空のもとフィールドワークに行った生徒の声を紹介します。

「琉球・沖縄史～グスク巡り～」

高等部　住田　瑠羽

高等部で城（ｸﾞｽｸ）の勉強をしている時、ある生徒がもっと城を知るためにフィールドワークに行きたいと吠えた。ということで、フィールドワークで座喜味城、阿麻和利のお墓、中城城、護佐丸のお墓、に行くことになった。

今回のフィールドワークで学んだ／体験したことは多かった。新しい知識を得ることができたし、霊的な何かを感じることもできた。（後に説明する）まず一つ言えるのは嘉数さんと一緒に行かなければこのフィールドワークはそこまで面白くなかったと思う（俺には）。ただ観光に行っただけなら気がつけないことを色々教えてもらった。例えば中城の外壁に実は小さな穴が空いていて台風が来ても空気を通す事によって壁が壊れるのを防いでいる、みたいな余程調べない限り気がつかないことを教えてもらった。

けど、俺にとってのメインイベントはその後に起こった。中城を見終わり付近の護佐丸のお墓に行った時だ。お墓の前にたどり着いた時、あたり一面に真っ青の羽をした蝶々が飛んでいた。お墓に近づこうと思った時、ふわっと温かい風が通った気がした。その瞬間お墓の前にとてつもなく力強いエネルギーの塊を感じた。強すぎてその場で一瞬凍った。それ以上前に進めなくなった。

護佐丸のお墓から帰る時ずっと降っていた雨と割と強く吹いてた風がぴたりと止まっていた。人間が想像してるのと違う形で霊的な何かはいるんだなと、改めて思った。

＊護佐丸・・琉球王朝の忠臣。築城の名人として知られる。

～山がんまりだより～

子どもがんまり

去った9月27日、今年度初めての「子どもがんまり」を開催しました。コロナの為、屋外であっても集まることを避けていましたが、少し落ち着いてきた頃の開催だったので、ホームページやフェイスブックでの案内が始まると申し込みをしてくださる方が大勢いらして、すぐに定員となりました。有難い事です。今号では9月の「子どもがんまり」は『パチンコ＆弓矢作り』でした。その時の様子をご紹介します。

「山がんまり」は2005年から珊瑚舎スコーレの生徒たちが山を開墾・整地してつくり続けている場所です。長い年月をかけて、たくさんの人の協力によってつくられた校外施設です。珊瑚舎スコーレに通う生徒以外の子どもたちにも自然環境と調和した生活を創り出した「むかしうちなーの知恵」を体験してもらいたいと願い、『子どもがんまり』を開催しています。今年度は新型コロナウィルスの影響で、９月27日に１回目の子どもがんまりを行いました。

会のはじめに、山がんまりでは天水を貯めたり、台風で折れた枝も薪として大切に使ってこの場所を

つくり続けていることをみなさんにお伝えしました。

この日は山がんまりにあるものを使ってパチンコと弓矢作りにチャレンジしました。パチンコ班と弓矢班に分かれて作業スタート。弓矢班の講師は寮スタッフのトコちゃんです。弓は竹を手斧で割いて自分好みのサイズに切ります。弦を張るときは竹をしならせてつけるので力が要ります。一人では難しいので協力して弦を張っていました。矢はススキを使ってたくさん作りました。パチンコはユウナの枝から「いい感じ」にＹ字になっている部分を見つけて剪定鋸で切り出します。ゴムと皮でパチンコ部分を完成させると試し打ちしたくてウズウズ。「弾にする木の実を探そう」と言うと、一斉に飛び出していきました。がんまり中を探して、今回はアカギの実を集めて弾にしました。この日の子どもがんまりは、中等部の生徒２名（マミ、エイタ）がボランティアで手伝ってくれたのでとても助かりました。２人は小さな子に道具の使い方などを教えながら、上手くいく方法を一緒に考えていました。

お昼ご飯をコテージで食べた後は、段ボールや一斗缶で作った的を並べて的当て大会です。的ごとに当てたらもらえるシールが違うので、全種類ゲットしようと我先に狙いを定めて矢や弾を放ちます。矢が飛び交う中で矢を拾いに行く子、子どもたち以上に熱中している保護者の姿もありました。

今年度は開催数を減らし、竈での昼食づくりができない中での子どもがんまりです。早く通常の形で実施できることを願っています。次年度の子どもがんまりの予定はまたホームページ等でご案内します。どうぞご参加ください。山がんまりでお待ちしています。　　（事務局スタッフ　松田浩史）

作った弓で的あて大会！

山がんまり

昼の生徒達の校外活動「山がんまり」。今年のメインは『ツリーハウス制作』と『がんまり窯での作品作り』を予定していました。ツリーハウスはプロジェクト中心メンバーが図案をつくり、制作には生徒達が交代で関わることができるようローテーションを組み、３か月ほどかけて第１ステージが完成。１１月現在、第２ステージに取り掛かり始めました。ツリーハウスについての詳しい話は次回をお楽しみに。

さて、今回はがんまり窯についてです。昨年末に窯の焼しめをするため、夜通し薪をくべ続けました（通信１３４号）。その後も事あるごとに火をたいていた方がいい、という事でイモを焼いたり、端材を燃やしたりしていました。今年は何とか作品を作ろう！と、来春２０周年に向けて販売予定をしている【植木鉢（ポット）】作りをしました。

陶芸家である保護者の指導のもと、生徒、保護者、夜間中学校の生徒と２週に分かれて焼き物作りをしました。昼の生徒達は自分用の小皿や小物等を作った後にポット作りにも挑戦。在校生、卒業生の保護者も、また遠足やフィールドワークに行けなかった代わりに昼の生徒達と一緒に過ごしたい！と夜間中学校の生徒達も朝から参加し、一緒にポットをつくりお弁当を食べて一日を過ごしました。少し風も出て寒くなり始めた頃だったので、焚き火場の周りで支援者からいただいた柿や焼きじゃがイモを食べてゆんたく（おしゃべり）をして終わりました。

今回作った作品は１２月の最後の校外活動で窯焼きをする予定です。自分達で作った土で、８００度ほどで焼き上げます。どのような出来上がりになるか楽しみです。

夜間中学生徒　ポット作りにチャレンジ！

昼の生徒も保護者もチャレンジ！

ふくぎのふぁー

（講師・スタッフのコーナーです）

Hello, everyone!

初等部、中等部のことば（英語）を担当しています、奥山有希（おくやまゆうき）です。ニックネーム、おくやんから、ヤンさんと呼んでもらっています。

最近では、生徒たちから、「やんやん」とも呼ばれるように、だんだんと生徒たちとも打ち解けられてきています。

今年の４月から担当させてもらっていますが、実は１０年ほど前にも一時期ある講師の代理で半年ほど、授業を持たせていただいたことがありました。それから、またご縁をいただいて、お話をもらった時は本業との仕事のバランスも考えましたが、子ども達の成長をもっと身近で見られる仕事に関わりたいと思っていたので、お引き受けすることとなりました。

本業では、NGO職員として、開発教育（世界の課題は自分にもつながりがあることに気づき、知り、学び、行動する地球市民の育成）に取り組んでいます。

ことば（英語）の時間では、英語の基礎的な文法的なこと、会話といった内容を前期は取り組んできました。生徒たちの前期ふりかえりより、授業についてのコメントからは、もっと授業内容を興味関心の高められるものにしないと…というような意見を多くもらい、後期は生徒たちとの話し合いからスタートしました。

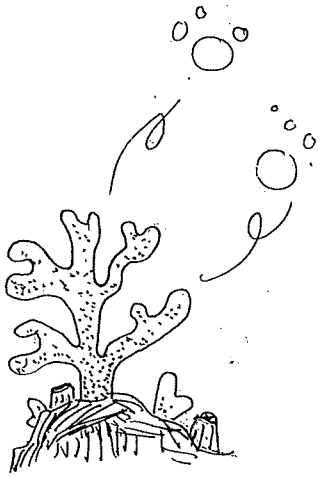
後期がスタートして、約２ヶ月が経とうとしていますが、中学レベルといわれる英語力が身につく程度の文法的なことも取り組んでいますが、週に１度は、世界ももっと身近に感じてもらえるような授業も取り入れています。

世界には７７億人の人が住んでいます。その中で英語をコミュニケーションのツール（手段）として使っている人がどれぐらいいるでしょう。母国語とせず、第二言語として使用する人がほとんどです。英語を習得することが目的ではなく、コミュニケーションの手段のひとつとして英語を自分のものにしてほしいと願っています。また、世界についての授業では、グループ活動が多く、生徒同士の話し合いの時間が多い授業ですが、テーマについてお互いに意見を言い合う様子は普段目にする様子とは違い、それぞれの考えをお互いに理解し合う時間になっているように思います。

自分のこと、相手のこと、世界のことについて自分の考えを話す機会はなかなか持つことができませんが、こういう時間の中でお互いの考えをシェアし

合いながら、尊重、理解し合える関係につながっていくことを願いながら、私も一緒に生徒のみなさんたちから学びたいと思います。

ポリプのゆくえ



珊瑚舎から旅立ったポリプの幼生達（卒業生、講師、そのほか巣立って行った人たち）が、定着した先々で今どうしているのか。リレー形式で綴ってもらいます。

こんにちは。私は珊瑚舎スコーレを卒業した岩間幾何です。

私は今新潟県十日町市で築100年以上の古民家を改修しています。日本三大渓谷の一つ清津峡渓谷トンネルがある集落で古民家を改修して宿を始める予定です。なぜここでこのようなプロジェクトを始めるに至ったのかを少しお話しします。

私は昔から自然が豊かな田舎でログハウスを建てたり薪割りをしてストーブで煮炊きしたりする生活に憧れをもっていました。しかし街の生活から一歩抜け出せずにいた時、スコーレの同級生の廣田伸子さんから彼女の地元十日町に面白い物件があるから宿をやらないかと誘われました。お互い国内、海外を転々とした生活で拠点がなかったので、「家」を作り宿にしたら気軽に友人を招くことができ、どこに行っても帰る場所ができるねと話は盛り上がりました。あまり雪国に馴染みがなく不安でしたが、行ってみると自然が豊かで、住んだことのない雪国はまるで海外に行った時のように新鮮でした。また本でしか知らない雪国の民具にも興味がわきました。まったく知らない土地だけど家を作って宿にしてみたいこの思いだけでこのプロジェクトはスタートしました。

そして今現在、私たちは民家を改修しています。昔旅館を営んでいた物件なので半分は昭和初期に改築してあり部屋数も多く、空き家でしたが状態も良かったのでこれならすぐに営業を始められると考えていました。着工したのは去年の６月ごろ。伸子と宮大工の棟梁と３人で改修作業を始めました。初めはひたすらゴミ出しと壁という壁に張られたベニア板をはがす解体作業でした。煤だらけになりながら解体作業を進めていくと剥したベニアの下から煤けた土壁や梁や囲炉裏が出てきました。床板をはがしてみると囲炉裏の場所が移動していたり、玄関が馬小屋だったりとその時代の生活様式がわかります。棟梁が家の記憶を紐解きながら私たちに教えてくれました。大工という仕事は、何十年前の大工仕事を見ることで勉強することができる面白い仕事です。棟梁からは寺社仏閣の話や、大工道具の使い方や木の種類、梁、胴縁など名称を教わりながら少しずつ覚えていきました。近くに住む左官屋さんからは、左官仕事を習い古民家の壁を試行錯誤しながら漆喰や土壁で塗る作業をしています。近くで解体される家があると聞けば、古材や建具、古い家具を貰いに行き、資金が乏しい中で何とか作業を進めています。しかし素人大工なのでまったく工事は進みません（なにせ設計図がなくその場その場で沸いてくるアイディアを形にしているので）当初３カ月くらいで家は完成するだろうと思っていましたが、気が付くと改修作業を始めて１年半になりました。村の人達も全く完成しない古民家を眺めいつ完成するのと聞かなくなってきた今日この頃。これはもう「サグラダファミリア」のように完成はしないかもしれません。

ただ不思議なことに改修しているといろいろな方が助けてくれ２人で実現不可能な事がどんどんできてきています。大工さんや左官屋さん、古材を提供してくれる方、数日滞在して作業を手伝ってくれる人。様々な人が改修作業を手伝ってくれ、しかも楽しかったといってくれると、完成までの準備期間もまた必要な土台作りだったと思えるようになりました。

開業する時には古民家改修作業がすべて完成する

計画でしたが、きっと間に合わないのでこの古民家を「under construction house　谷ハウス板屋」と命名しました。建設途中の家です。来年春にはオープンの予定ですが、まだ古民家半分は改修途中なので壁塗りや大工仕事などやってみたい方はいつでも体験できるようにしていきます。古民家改修に興味がある方、田舎でのんびりしたい方、雪を満喫してみたい方、いつでも遊びに来てください。長期滞在も大歓迎です。

家は人がいて初めて「家」になると思います。この古民家は私たちだけの「家」ではなくいろんな人達が交流できる場としての「家」にしていきたいと思っています。興味のある方は、instagram house_taniproject まで。（２００３年度卒業生）

珊瑚舎スコーレ開校20周年記念
琉球ミュージカルのお知らせ

『Fly to the next
～種子運ぶ　風はまれ人　土はきみ～』

珊瑚舎スコーレは来春、開校２０周年を迎えます。開校以来、多くの方々の支援により生徒達と活動を続けることができました。ありがとうございます。これまでも初年度を初めとし、５年ごとに生徒達がつくるミュージカルを上演してきました。今回は、第一回まれ人講座にお招きした詩人谷川俊太郎さんからいただいた連句の発句「種子はこぶ　風はまれ人　土はきみ」をもとに、生徒達があらすじを書き、それを講師が脚本にしました。南城市馬天の新校舎にて上演します。是非、お越しください。（今後のコロナの状況により上演形態に変更があるかもしれません）

日時：２０２１年４月４日（日）午後
場所：南城市佐敷津波古新校舎
＊詳細は後日お知らせいたします。

★　★事務局便り　★　★

★　先の告知版でもお知らせしている 20 周年企画のミュージカルの練習が本格的に始まりました。フィナーレで歌い踊る曲が出来上がりダンスの振り付けも少しずつ出来ています。でも生徒から、自分たちが作っているというよりなんかやらせられている感がすると声が上がりました。急遽お昼休みにミーティング。まず感じたことから声を上げよう、自分たちのものにするためには自分自身が動こうよということに。その後に行われたミュージカルの練習は空気ががらっと変わり、いい時間になり驚きましたと演出の方が述べるほどでした。自分ごとにしていくための小さいけど大切なプロセスが生まれたのでしょう。

★夜間中学校の生徒たちが、今年は遠足も慰霊の日のフィールドワークも中止、修学旅行もないと嘆くことしきり。昼の生徒たちと🍙を食べるだけでもいいからと「山がんまり」に行きました。朝 8 時 30 分珊瑚舎のマイクロバスで出発。「山がんまり」を知らなかった生徒もおり、フール（便所）や古民家を興味津々に散策し、生徒や保護者と一緒になって陶芸に挑戦、お昼はまあるくなってお弁当を一緒に。午後は新校舎を見てもらい、ツリーハウスの屋根に使うマーニ（くろつぐの葉）を編んでくれました。帰りは夕方 5 時。80 歳を超した方もいるので心配でしたが、みなさんお元気！良い一日なりました。

★　★　★

●今年度(10 月 1 日～11 月 30 日)寄付・カンパを頂いた方々
石田みどり鹿糠文子坂本和子岡村健手塚賢至照本祥敬市野寿子当山幸江森口美千惠三浦幸子山田道子助川寿美子式部恵子丹羽雅代與儀勝子与那覇晴海湯本貴和上田秀一大城喜春北上田登久子盛口佳子真津昭夫家門収一長嶺由紀子橋川由美子小渡律子幸地江美子城間あずき松茂良米子名城悦子所扶久代石野裕子矢崎智章尾崎せき松田晴代萩原真美城間栄順村上呂理伊波雅子仲里博彦下地孝野村佳雄西山哲平智海竹内新大城博長美枝子野村佳雄横山真由美田中和子三上亮子松原慶子西原邦男泉恵子諸見里安信中地八重子相川昌美渡辺久次武義和友寄和子古堅苗上野真理子三上幸子益子雄三益子幸江後藤栄子坂本新一朗有）ラボータ奥本さつみ福井香代子鈴木和男照屋まち子藤原良子安田圭太郎

発行者　：珊瑚舎スコーレ事務局　　遠藤知子
住　所　：〒900-0022　　那覇市樋川 1-28-1-3F
Tel　　：098-836-9011　　Fax：098-836-9070
Mail　　info@sangosya.com
URL　　：http://www.sangosya.co